

スプートニク事件と日本の世論

井川充雄

1957（昭和32）年10月4日のソ連による人類初の人工衛星「スプートニク1号」打ち上げ成功により、アメリカ合衆国を始めとする西側諸国は大きな衝撃を受けた。本稿は、米ソの宇宙開発競争を日本の世論がどのように受け止めたかについて、各種世論調査結果から検討しようとするものである。当時の新聞社による世論調査はそれほど多くはなかった。また、政府機関による調査も、やや時期が後になる。そうした中で、USIA（アメリカ情報庁）は、日本を含む世界各地でこの主題に関する世論調査を実施した。それによると、「ソ連がアメリカをかなり先行している」ないしは「アメリカがソ連を少し先行している」という回答が多い点は、日本と西ヨーロッパでほぼ同一の傾向であった。それに対して、日本では、「スプートニク1号」の打ち上げ成功をソビエト社会主義体制そのものの成果と考えるものが多いのに対して、西ヨーロッパでは宇宙開発など特定の分野に限定されるという見方が多かった点は注目に値する。